

◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2022(4回シリーズ)

『消費者市民に対して説得ではなく理解を促すリスクミとは』

第 4 回テーマ：『消費者はゲノム編集食品のリスクを受容するか』(オンライン)

【開催日】2022 年 10 月 30 日(日)13:00～17:30 (講演会)

【開催場所】 オンライン会議(Zoom)

【主催】 NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)

【後援】 消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科

【賛助・協賛】

キューピー株式会社、旭松食品株式会社、カルビー株式会社、株式会社セブン-イレブン・ジャパン

日清食品ホールディングス株式会社、日本生活協同組合連合会、サラヤ株式会社、日本ハム株式会社

【対象】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、
マスメディア、消費者団体・市民団体、など

【定員】 先着 70 名(オンライン会議のため増員の可能性あり)

【講演会参加費】 3,000 円/回、学生は 1,000 円/回(事前に銀行振込をお願いいたします)

* SFSS 会員、後援団体・協賛企業(口数により人数制限)、メディア(取材の場合)は無料

【参加申込み】 <https://forms.gle/A5psTDhf1nAxLw9q6> (申込期限:10 月 28 日(金))

【お問い合わせ】 SFSS 事務局まで(info@nposfss.com)

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師 3 名(各 50 分)+総合討論(90 分):13:00～17:30 の構成とします。総合討論では、消費者市民に対して説得ではなく理解を促す食のリスクコミュニケーションのあり方について、会場からの質問に講師が回答する形で議論します。

【事故防止対策等】 フォーラム開催に際して、事故防止及び公衆衛生の措置に留意し、十分に講じます。特に、今般の新型コロナウイルスに関しては、十分な感染症対策等を講じることとします。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① 古山みゆき(生活協同組合コープこうべ)

『生協組合員はゲノム編集食品をどう捉える?』

食の安全にかかわるさまざまな情報があふれています。消費者は何を信じてどのように商品を選んだらよいのか迷っています。特にゲノム編集のような新しい技術については、否定的な意見に偏りがちです。ゲノム編集食品については、「生協で取り扱うのか」というところまでの論議には至っていません。しかし、取り扱う云々とは別に、「新しい技術としてしっかりと学習しよう」という立ち位置で情報提供に努めているところです。生協に直に寄せられた組合員の声についてご紹介をしながら、消費者とどう向き合っていくかを一緒に考えたいと思います。。

② 浦郷 由季(全国消費者団体連絡会 事務局長)

『消費者がゲノム編集食品を受け入れるには』

ゲノム編集技術応用食品については、現在 3 品目が厚生労働省へ届出され、インターネットで通信販売されています。ゲノム編集技術応用食品の安全性については消費者団体の中でも受け止めは様々です。一般の消費者はどのように受け止めているのか、全国消団連ではアンケート調査を行いました。その調査結果から見えてきたこと、また厚生労働省での食品衛生上の取扱いについての議論の際、参考人委員として参加した経験から、消費者が受け入れるにはどのような情報が必要か、どのような情報共有の場があるとよいのかなど考えます。

③ 山口 治子(愛知大学地域政策学部 准教授)

『ゲノム編集食品をめぐるリスクコミュニケーションの課題』

2019 年 10 月ゲノム編集食品の届出制度が開始された。ゲノム編集食品をリスクベースの食品安全管理の枠組みからとらえると、これまでのハザードとの決定的な違いはリスクアセスメントが実施できないことである。科学的評価が実施できない中で、ゲノム編集食品の安全性を客観的にどのように確保し、管理していくべきだろうか。リスクガバナンス研究やいくつかのリスクコミュニケーション研究の成果を紹介し、アンケート調査から得られた消費者のゲノム編集食品のリスク認知や受容性(態度)を踏まえ、ゲノム編集食品という新規技術を用いた食品のリスクコミュニケーションの課題について議論する。

以 上